

現状・課題

- 下水道の整備等に伴って東京湾の水質改善が進み、平成27年度には葛西海浜公園で海水浴の社会実験が実施された。
- こうした水質改善の着実な進展の一方で、CODについては、この20年間で大幅には改善しておらず、窒素、りん等の流入による東京湾の富栄養化に伴う赤潮や青潮の発生、雨天時における糞便性大腸菌群の増加などの課題が依然として存在する。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、お台場地区においてトライアスロン競技等の開催が予定されている。このことを踏まえ、東京湾の水質改善に向けた各種の対策を一層加速していく必要がある。

東京都下水道局の取組

- 雨天時に下水道から放流される汚濁負荷量の削減
貯留施設・高速ろ過施設の整備

2017年度末：116万 m^3

➡ 2020年度目標：150万 m^3



貯留池 神谷ポンプ所

貯留施設に加え早期に導入可能な高速ろ過施設を組み合わせることで、整備ペースを約2倍にアップし対策を推進。

経営計画2013 (H25~H27)
11万 m^3 (3.6万 m^3 /年)



経営計画2016 (H28~H32)
36万 m^3 (7.2万 m^3 /年)

- 東京湾などに放流される下水処理水の水質改善
準高度処理と高度処理の導入

2017年度末：354万 m^3 /日

➡ 2020年度目標：430万 m^3 /日

既存施設の改造による水質改善のスピードアップ

関係自治体の連携

- 東京湾の水質を改善するには、東京都の取組だけでなく、関係する全ての自治体が協力して、広域的な取組を進めることが重要。



東京湾におけるCODの都県別排出割合
(平成26年度)



※出典：「化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量削減基本方針」
(環境省 平成28年9月)

国への要請

- 現在、「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づき、東京湾再生に向けた取組が進められており、関係する自治体が協力して、広域的な取組を進めることが重要となっている。
- このことから、東京湾の水質改善に向け、関係自治体が行き届く以下の施策に対し、必要な財政措置を講じるなど、国が中心となって広域的な視点からその実施を推進していただきたい。

- 下水道
合流式下水道の改善、高度処理の導入促進等
- 雨水流出抑制
雨水貯留・雨水浸透施設の設置等